



北総里山クラブ (HOSAC)

第 10 号

タウンミーティング反省会

2006.12.15. 19:00~21:00

ウエルプラット ボランティア室

参加者:上西・丹澤・森田・堺(義)・堺(初)・
中條・長谷川・秋井・米田・永瀬・相馬(な)



北総里山タウンミーティング総括

- ・ **会計報告** 収入 34,000 (印西市チラシ代は、RCNの鈴木さん補填)
支出 33,821
余剰金 179 堺(初)さん保管 詳細は別途資料参照

- ・ **名簿整理** 名簿記入来場者数: 181名 (実行委員、学生スタッフ、関係者を除く)
印西62名 白井82 東京3 横浜1 埼玉2 市川1 木更津1 柏1
松戸2 鎌ヶ谷2 船橋9 千葉2 印旛村4 本埜村8 不明1

- ・ 『**環境づくりタウンミーティング総括大会**』(12月23日 於:千葉県中央博物館)
参加予定者:丹澤・上西・長谷川 他
スピーチ:丹澤
報告書作成:森田・相馬(な)……19日までまとめて栗原氏へメール配信
報告書(案)の承認と追加項目……本日の記録を別資料として添付する

・ **実現可能な課題の整理と方向性**

○会場からの意見で注目すべき意見+私たちの意見

- ・ 団地内に落ち葉で堆肥を (食物循環の中に科学物質を入れない)
- ・ 残土埋め立ての処理を誰が責任をもっておこなうか? 誰が費用を負担するのか?
- ・ 相続に伴う、林の売却や転売と、伐採
- ・ 野焼きガイドライン(野焼き・焚き火は 里山保全に悪いことばかりではない)
- ・ 水路三面張りは誰が決めているの?
- ・ 農薬空中散布(印西市だけがおこなっている)は、水の汚染につながっている
- ・ 林の伐採・開墾
- ・ 環境教育を学校教育への組み込み
- ・ 人材育成
- ・ 北総地域ならではの点在する個々の里山資源と
人の力を生かし、北総地域全体として里山をいかしたまちづくりの実現を
- ・ ケビンさんの里山保全の提言を実践していく

○既にやるべきことは見えているので、これらの検討事項を実現するためにどうしていくか。

タウンミーティングでは、行政や地権者の方々の意向を鑑み、谷田・武西地区という言葉
を前面に押し出さずに進めたが、

“里山を生かしたまちづくり”を具体的に実践していくに当たり、今回 タウンミー
ティングで新たに知りえた団体に知恵を貸してもらいながら、
北総里山クラブとしては当初の目的、“谷田・武西地区の保全”を進めることで合意。

実践項目

1) 小さい1つを実現し、成功を積み重ねていく → **会報へ集約**

2) それぞれの団体(分科会)が1つ1つの課題の対策案を具体的に勉強・提案
→ 分科会の発表の場として**報告会(タウンミーティング)の実施**

3) 議論、一般論だけではなく、
具体的に里山保全の実現をしていく
→ **谷田・武西地区で対応**

4) 定期的に1つのテーマをころがし、
それを会報にまとめあげ、情報を共有化していく
→ **広報誌“北総里山クラブ”発行**



5) 里山をいかした街づくりのために 知恵を借りあい情報を共有化していくネットワークを
→ **タウンミーティング実行委員会構成 15 団体のリスト作り・地図作り**

6) 里山保全の根幹の課題(地権者・農業支援・地域経済・所有権、等)の実現にむけて
→ **分科会での勉強会の実施**

7) 緊急度の高い保全地区(谷田・武西地区)の対応
(ケビンさんのテキスト(里山保全)の実施)

科学性・地域特性を編集した保全要望書『谷田・武西ガイドブック』
保全のための戦術
現状の課題を洗い出し、最初の一步を踏み出すための『指南書』
を長谷川先生が作成する



- ・ 印西市(武西)に環境調査費がついた。
- ・ 県が谷田・武西地区は、保全すべき地区として認識し、土地を売らないといっている。だから地主さんも売らないで下さいね。
…というふうに市の認識をとっていきたい。

里山に囲まれたまちづくりを実現することが、生物多様性保全を地域から実践することです。そのために、具体的な地域を定義すること、参加する市民の顔が見えるように、交流を深めること、を目標として、タウンミーティングを実施しました。これからの活動を考えると、団体の横のつながりを図る集会在企画され、実現できたことは大変大きな成果だったと思います。生物多様性保全戦略、環境基本計画に対する施策提言では、千葉県各地からの報告をまとめる12月23日の総括大会に期待しましょう。

15日の反省会では、活動の原点（北総里山クラブは、保全の緊急度が高い谷田・武西の保全を実現させ、その成功をバネに北総地域を、里山に囲まれたまち、にしていくという目標を共有する市民団体の連合である）を再確認しました。市境の自然環境は、どちらの市からも見過ごされがちなのですから、これは画期的なことです。

谷田・武西の保全とは、具体的に何を達成することなのか、ここで改めて合意をする必要があります。そのために、私は今、地元の方々の意見や希望をじかに聞いてみたい要求に駆られています。音楽会を開いた若者グループや草刈をするからゴルフを続けさせろ、と主張するおじさん、自然観察をする私たち、広域の生態系保全のため絶対壊してはいけないという学者の意見、いろいろな方の本当の真意を聞きたいと思っています。つまり、具体的な場所にかかわる利害関係者の意見をききとり、そこから現実的な方向性を見出すことです。方向を見誤らないためには、理念が、目標がなければなりません。

そこで、里山に囲まれたまちづくりを実現するためには、谷田・武西がどんな状態で将来に受け継がれるべきなのか、北総里山クラブとしての合意を文書、地図に示す必要があります。しかし、これは、あまり難しいことではありません。ケビンさんの提案を骨子として、谷田・武西の自然資源、文化・歴史資源をリストアップし、それをことごとく保存し、可能なかぎり多くの市民に親しんでもらうこと、とまとめられるでしょう。

今回の集会では、非常に建設的な提案がなされました。その提案を谷田・武西に当てはめてみて、うまく適合しそうかどうか、実現できそうな提案かどうか、具体的な検討を始めたいと思います。例えば、谷田の企業庁用地を里山保全の大義名分で市民団体が借り受ける、としたら何ができて、何が必要なのか、考えてみるのです。年に1回の音楽会開催のため、若者が一緒になって草刈をし、その後で地元の酪農家で牛乳を飲んだりできれば、楽しいでしょうね。牛糞捨て場が実は牧草地になっていることを知り、車で踏みつけることがどんなに農家を痛めつけているのかを知れば、やるべきことは見えてくるでしょう。そういう意見交換会、を自主的に何度も繰り返し、具体的な検討をしていくのです。その準備をはじめましょう。

北総里山タウンミーティングの意義

事務局 丹澤 正直

やろう！と決めてたった一ヶ月で、200名以上の参加者が集うタウンミーティングができたことは大変にうれしい出来事でした。

これは、生物多様性という言葉が大きく捉え、地域の人たちが誰でも賛同できる「まちづくり」という目標に、皆さんのベクトルを合わせられた結果だと思えます。

ここ北総地域の特徴は、都市機能を持ちながら、すぐ近くに歴史ある里山の形態が残っている場所であることではないでしょうか？千葉県的に考えれば、成田空港から羽田空港を結ぶ国際路線の中に現存する里山自然地域であるということです。

わざわざ、ビオトープや、公園を作ることなく、「まち」から流れている小さな流れをたどっていけば大きな流れまでいきつく天然の水系があり、その周りには豊かな生態系をはぐむ里山自然公園が広がっているのです。

何より大切なのは、「まち」にも里山周辺にも、「ひと」が住んでいること。

その「ひと」達が、自分たちの送っている日常をすこしだけ、地域づくりに協力する姿勢に変えてくれるだけで、ここは、世界にもまれな天然の公園をもつ環境都市としてクローズアップされてくる可能性があります。

普通に暮らしていることが、多くの人に環境保全都市として感動してもらえる。

そんな場所に住んでいることを、住民も誇りに持てる地域が出来上がったらいいと思えます。結果として、「ひと」も含めて生物多様性を実現したまちになることでしょう。

今回のタウンミーティングでは、北総地域周辺の環境保全・まちづくりに関心のある15団体の人が実行委員になっていただけました。

また、多くの市民にも参加していただきました。それぞれの過程で、熱心に討議を重ねる皆さんの姿に感動し、この人たちと一緒にならできると思いました。

タウンミーティングの一刻一刻が、そういう意識の共有をできる時間だったと思えます。

やれます。やりましょう。これからも手を携えて。